女性リレートーク

私と農業土木

NTCコンサルタンツ株式会社
東京支社　技術第一部
多田成美（ただなるみ）

私のルーツ

私は福岡県福岡市で生まれ、就職を機に上京するまで福岡県で育ちました。小さいころから音楽が好きで、学生時代にはピアノを習ったり、吹奏楽部に入って遅くまで部活に打ち込んだりと、忙しくも充実した毎日を過ごしていました。高校までは農業と関わることはほとんどなく、実を言うと農業や土木に特別関心があったわけではありませんでした。

自分の進路について深く考えるようになったのは、高校に入学してからでした。当時、環境問題が社会的な問題としてテレビ番組等でも大きく取り上げられており、自分も環境問題について学びたい、という思いを持つようになり、大学では農学部に進学しました。農学部では「地域環境工学分野」といって、水理学や土質力学といった工学的な観点から、環境問題にアプローチした研究ができる分野を希望しました。この分野では水理学や構造力学等を基礎知識として勉強するのですが、その知識を活かして農業に貢献できる「建設コンサルタント」という仕事があることを、ここで初めて知りました。この分野に入った当初は環境のことにばかり目が行きがちでしたが、日本の農業や農業土木について勉強するうちに、勉強した内容を活かして日本の農業の役に立てる、建設コンサルタントという仕事に次第に魅力を感じるようになっていきました。

会社にて作業中…

設計に関する仕事に携わって

NTCコンサルタンツ株式会社に入社して、今年で四年目になります。建設コンサルタントの業務内容は事業計画、設計、耐震解析や水理解析等、本当に幅広く、入社後に社内で「どんな仕事がしたいの？」と聞かれてもなかなかイメージできずに戸惑いました。

数ある業務内容の中で、入社当時から担当させていただいた業務が、用排水機場や農業用パイプライン等の基本設計・実施設計業務でした。現在、農業施設は新設することは珍しくなっており、むしろ既に作られた施設を補修していかに長く利用していくか、という傾向に移行してきています。ですので、こうして一から施設を作る設計に携わることができることは非常に貴重な経験だと感じています。発注者である農政局の方、施設を管理される土地改良区の方との打合せを繰り返し、いただいた要望も取り入れながら設計を進めていくことは非常に難しいですが、自分達が設計した施設を利用してもらうことによって、農業用水が行き届かない等の問題を解消できるのだと思うと、非常にやりがいを感じます。

施工現場にて

ただ、実施設計は業務が終わっても、そこから工事に入るまでの発注段階、実際に施工する施工段階と、完成までの長い期間対応が必要になる仕事でもあります。特に施工段階で想定外のトラブルが起こった場合には迅速な対応が必要です。実際に、建設途中の施設が沈下したといったトラブルがおこり、対応する上司や先輩社員の姿を見ながら、この仕事の難しさ、大変さを実感する日々でもあります。こんな大変な仕事ではありますが、実施設計に携わった方と話をすると、皆さん「実際に自分が設計した物が完成したところを見ると、非常にやりがいを感じる」と言われます。残念ながら、私が設計に関わった施設で完成したものはまだありませんが、入社直後に図面の修正を手伝っていた業務で設計した施設が実際に現場で形になっているのを見た時は、率直にすごいな、と思いました。苦労も多い仕事ですが、その分非常にやりがいのある仕事だと思います。

公共事業について考えること

本年度、東京都知事として小池知事が就任され、「東京大改革」に取り組まれています。築地市場の移転問題や東京オリンピックの競技会場変更について情報が公開され、広く議論が行われるようになりました。その中で、今までは大きな問題とは認識されていなかった築地市場の移転について、土壌汚染対策として必要な盛土が計画途中で行われないことになっていたり、オリンピックの競技会場候補の工事費が当初よりも大きく膨れ上がっていたりと、次々に問題点が明らかになり、公共事業の不透明さに多くの方が疑問を抱いたのではないかと思います。自分自身が仕事で公共事業の設計を行っていることから、このように重要な情報が不透明なまま計画が進められようとしていたことを非常に残念に感じました。これを機に、情報公開を広く行うことを念頭に置いた事業の推進が、さらに重要視されていくべきではないかと感じます。

また、オリンピック競技会場については、当初は工事費を削減できる会場選定の必要性が叫ばれていましたが、その後、実際に競技を行う選手の意見も取り入れた会場選定が必要ではないかという意見も聞かれるようになりました。日頃の業務の中でもやはり工事費が重視され、無駄な費用は削減という流れを強く感じます。もちろん公共工事という性質上、費用を最小限に抑えることは非常に重要なことだと思いますが、工事費だけにとらわれず、使い手の意見等も取り入れる柔軟な進め方も必要なのではないのかと、この議論を通じて感じています。

さて、次回は佐藤工業株式会社でご活躍の児玉ひと美さんにバトンをお渡ししたいと思います。

多田さんからのバトンをしっかり受け取りました。
農水省の二ツ石ダムでの現場経験も紹介したいと思います。楽しみにしていてください。

佐藤工業株式会社　東北支店
原町東部雨水幹線作業所
工事主任
児玉ひと美